

神
陵
文
庫

第二十六卷

目次

島原の乱でたった一人生き残った男・
絵師山田右衛門作の生涯

フランス民事訴訟法について

地震と建築

家木 裕隆 1

若林 安雄 31

山田 稔 53

島原の乱でただ一人生き残った男・

絵師山田右衛門作えもさくの生涯（08・6・21）

家木 裕隆（昭22・理）

はじめに

寛永十四年（一六三七）十月二十五日、島原、天草で起った領主の苛政とキリシタンの弾圧に反抗する農民一揆は、幕府に不満を抱く浪人たちも加わって数万人の規模となりました。一揆勢は原城に立てこもり、幕府軍との激しい攻防戦で寛永十五年正月には上使板倉重昌が戦死しました。

重ねて上使に任命された松平信綱は十二万の幕府軍に厳しい包囲網を布かせ、力攻めを避け、兵糧攻めに徹しました。一揆勢の弱つたのを見て二月二十七日～二十八日に総攻撃を仕掛け、三万七千人いたといわれる一揆勢を女子供に至るまで皆殺しにしました。

その中でたった一人生き残ったのが今日お話しする絵師・山田右衛門作えもさくなのです。